結 ゆいっこ 盛岡 新聞
ぼくらの復興支援 IWATE YUICCO
番外編 発行日／2012.2.4
編集・発行／いわてゆいっこ盛岡
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮 5-10-20-120 号棟
Tel：090-4476-7083
Mail…… morioka@yuicco.com
Blog …… http://yuicco.com
Twitter …… iwate_yuicco

2011いわてゆいっこ盛岡の総括集会&忘年会を終えて、みんなからもらった振返りの一言をまとめてみました。番外編ゆいもり新聞です。それぞれが思った1年、それらをシェアしていくことで、今後の活動指針、ひいては活動内容につなげていければと思います。

本当にあっという間に過ぎた9ヶ月。しかし、とても濃い9ヶ月。ゆいっこ盛岡のメンバーは本当に個性派揃い。一人ひとりがそれぞれの個性と能力を発揮し、それぞれの役割を担っているから、これまで現地の多種多様なニーズに応え、微力ではありますが、復興支援活動ができているのかなと思います。それを改めて実感できたのが、総括集会と懇親会でした。常に感謝の気持ちを忘れずに、これからも息の長い、顔の見える支援活動を仲間と共にやっていきたいと思います。

吉田けい子

この9ヶ月間は本当にあっという間に過ぎていきました。それだけ濃い時間を過ごさせて頂きました。多くの経験、心から尊敬できる方々との出会い、それら全てが僕の中で日々大きく成長しております。それにつられて自分自身も成長を続けていけたらな、と思います。ゆいっこ盛岡、そして多くの皆さん、出会いに感謝致します。

代表／藤原慧矢

3月11日から約9ヶ月、震災前の自分を思い出しにくくなっている今日この頃、こうして普段共に活動をしてきたゆいっこメンバーとゆっくり懇親できることに感謝致します。活動を振り返る映像を作成する為に、過去の写真を見ながら、当たり前ながら「現実感」を感じました。それほど3.11は私の人生に大きな転機となりました。2012年以降、どんな活動をしていくのか、今の段階では霧中の部分が多いですが、この様に楽しいメンバーと、長い支援を目指し、これからも活動していきたいと、強く思う一日でした。

フレッシュ☆

今振り返って思うことはありきたりですが「人」だということです。3/11の震災の際は、何年も連絡を取っていなかった友人から沢山の連絡と問い合わせをもらいました。気持ちが嬉しくて大泣きしたのを覚えています。いつも考える事はなくても、人はそうやって繋がっていて、困った時には助け合える関係なんだということに私自身気づかされました。ゆいっこの活動を通してスタッフ内でも被災地の方々とも新しいつながりができまた未来へと繋がっています。長い道のりだからこそ1人では難しい。そっと寄り添っていられる関係を細く長く続けていければと思っています。

まーさん

▲12月18日、アイーナにて総括会議。みんな真剣な眼差し!

9ヶ月間を振り返って初めは何かしたいけれど、どうしたらいいのか分からず友達が支援物資を持って行く時に物資を提供する程度で直接支援することはありませんでした。ゆいっこに出会い公園の清掃や側溝の泥かき、バザーをして直接被災地の方との交流などを通して助け合うことの大切さを改めて学びました。これからは、楽しさ、笑い、で被災した復興者の一助になるような活動ができるように楽しく頑張ろうと思います。みんながくもりない笑顔で笑いあえるその日まで(^▽^)／

J

ゆいっこ盛岡が出来てから、9ヶ月間色々有りました。皆絶対に巡り逢わなかった人達、その中で、震災が有り、何一つ共通点が無い他人が同じ目的で出逢いそれが素晴らしい出逢いで仲間になりゆいっこ盛岡になりました。自分はこんな素晴らしい仲間と出逢えて、生まれて初めて生きてて良かったなと思いました。出会っちゃいました最高の仲間たちに。ゆいっこ最高です!!!

佐藤大輔

震災から9ヶ月が過ぎ、新しい年が明けようとしています。私はこの9ヶ月、ひたすらパソコンの画面から皆の行動を見ていました。ボランティア業務が私生活を圧迫して悩んでる声を聞いた事もあります。しかし、宮古に行くと笑顔になって帰ってくる。「次はいつ行く?何をする?」それがあたりまえになってくる。「顔の見える支援」「寄り添う」「つながる」「絆」・・・3.11のあの日からよく耳にする言葉は、メディアから聞くと聞き流してしまうけどみんなをみてると、ああまったくその通りなんだと、思うのです。

八重樫あゆみ

震災から11ヶ月が経とうとしています。私は元々仕事上でお付き合いのあった大船渡のお客さんが被災された為、個人的にそちらの方のお手伝いをしていました。しかし6月くらいになると、お

手伝いできることも無くなり何かもっとできることはないか模索していました。そんな時、確か8月だったと思いますが、友人からゆいっこの存在を教えられ紹介してもらうことになりました。ゆいっこ自体は3月から活動していたとの事で、今更入ってうまく溶け込めるか不安でしたが、9月に入り実際参加してみるとそんな不安は一掃されました。みんなが積極的に話し掛けてくれ、飲み会があると必ず誘ってくれ、あっと言う間に溶け込むことができました。また、現地の方々も、活動をコーディネートしてくれる方、一緒に活動参加者してくれる方、お昼ご飯を作ってくれる方、また携わってない方々でもたくさんの方に声をかけていただいたりと、本当に良い方ばかりです。今は震災当初から活動内容も変わってきていますが、まだまだできることはたくさんあります。そういう素晴らしい仲間や周りの方々と一緒にこれからも末永く活動に携わっていきたいと思っています。

吉田圭祐

ゆっくり流れていた時間が突然コマ送りになった3月11日。余りの惨状に言葉もなく立ち竦む人々。でもすぐに人は動きだします。それは助かった命を生きなければならないからです。無我夢中の一年でした。終戦後のような風景の中で、多くの人と出逢い、人として議員として様々なことを学んだ一年でした。支えは皆さんの笑顔に秘めた優しさでした。誰かが自分を心配してくれている。それが心の支えになるのだと分かった一年でもありました。素敵な出逢いや嬉しかったことだけを覚えていて、あとはみんな忘れられた忘年会でした。ゆいっこの皆さんやボランティアの皆さん、お一人、お一人に心から感謝しています。ありがとうございます。支援を必要としているたくさんの人と優しい人との手と手を繋げる、それが私の仕事です。皆さんに素敵な出逢いになるように来年も頑張りますので、宜しくお願いします。

須賀原チエ子

ゆいっこ盛岡の皆さんへ　先日のお泊り忘年会に参加させていただき、とても楽しい思いをさせてもらいました。19日の朝も駅迄送ってもらいました。本当にありがとうございました。かしこ

三浦チヨ子

震災2週間後に田老へ行き、自分の肌で感じたなんとも言えぬ心ふるえる寂しさ、また大切な家族や友人の温度を感じながら、抱き合って再会できた喜び…その全てが活動の始まりでした。つながりある場所が、見たこともない景色へと一瞬にして変わってしまい、大切な人達が悲しい思いをしました。気持ちだけで動いた当初でしたが、今はそれを共有し、復興の足掛かりになろうと動く仲間たち、お世話頂いている宮古の方々、岩手に留まらず沢山の人達と出会えたことが、目に見えない大きな宝物となりました。この9カ月の活動内で頂いたパワーは、今の私の生活に直結しています。だからこそ「今」ある生活、仕事をより尊く、大切なものだと感じました。そして果たすべき役割があるのだと感じます。これからも「結」の名の通り、結びつきながら、例えそれが小さな取り組みだとしても、積み重ねをしていきたいと思います。

金城稔子

この9ヶ月間、震災が無ければ出会うことのなかった仲間と、様々な活動をしてきました。本当に被災者のためになることがどれくらい出来たのかは、正直分かりません。

被災地では、「忘れてはいけないから…」と、今年は"忘年会"という言葉を使わない傾向があるとのこと。震災が忘れられないようにするために、来年もまた少しずつ、ゆいっこの活動を続けて行きたいと思います。

長谷川愛

忘年会の感想→笑いあり涙あり熱く話ったりなんかもありでとても楽しかったです♪、語ることでカタルシス（笑）。しかしゆいっこは個性の固まりですね（笑）

活動について→最初はボランティア側で活動していたことが多かったですが、どんどん変わっていくニーズをみつけて宮古のかたがたが主体的に動けるよう生活していけるよう、一緒に考え活動していきたいと思います。ゆいっこは個性のかたまりですが（笑）、活動に関してはみな真剣に意見出し合ったり協力し合ったりしていて素晴らしいと思います♪

成田　公斗

▲総括会議後、忘年会。美味しい料理に、楽しい仲間たち。笑いはやまず。

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりPDFでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。

助成 日本財団 The Nippon Foundation

災害ボランティア・NPO活動サポート募金 www.akaihane.or.jp

この事業は赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受け実施しています。